



# 倫理委員会 ニュースレター

情報発信 第12号

研究倫理：看護研究の質保証と向上のために -ピア・レビュー-

林 優子（倫理委員会）

ピア・レビューとは、成果物を専門的知識や経験のある仲間や同僚（peer）が、評価あるいは審査する（review）ことであり、それには、学生同士による学習評価、高等教育に関する質保証の評価、学術誌への投稿論文の評価があります。

今回は、学術誌への投稿論文の質を評価する「ピア・レビュー（査読）」について取り上げます。論文査読をする側と、論文査読を受ける側の各々の立場から、ピア・レビューの理解を深める一助になればと思います。



つくし（土筆）

「向上心」「努力」

## ピア・レビュー

看護研究の質を保証し向上させるためには、研究不正を防止する誠実な研究活動の実施が重要であり、さらに、実施した研究の質が保証され信頼性の高いものであるかどうかを評価することが必要になります。科学研究の質を保証し向上させる上で、重要な役割を担うのが「ピア・レビュー」です。特に、学術誌に論文が投稿されてから掲載に至るまでの過程において中心的な役割を担っています。ピア・レビューを行う人は「査読者」と呼ばれ、看護学会であれば、その学会の研究分野を専門とし、論文評価を行う者として適任であると当該学会で認められた方々です。

査読者は投稿された看護研究論文について、看護研究の質を保証する内容であるか、看護実践に有用な研究であるか、発展性のある研究であるか、看護学として意義のある研究であるかなどを科学的観点から評価します。それらの評価は、学術誌で決められた査読基準に沿って行われます。一般的に、国内外問わず論文査読の基準は、①正当性、②論理性、③新規性、④重要性、⑤普遍性、⑥倫理性、⑦論文の体裁が示されますが、①～④はいずれの学術誌においても共通しているようです。日本クリティカルケア看護学会誌では、①クリティカルケア看護学としての意義（新奇性、創造性、重要性、有用性、発展性）、②研究の厳密性、③論文の構成、④倫理的な問題を基準に投稿論文が評価されています。詳細については本学会「査読ガイドライン」を参照してください。（文献1,2参考）

ピア・レビューを経て学術誌に掲載された研究論文は、掲載に値する一定の水準を満たしていることになり、研究の質が保証され信頼性が高い論文だと言えます。

## シングル・ブラインド制とダブル・ブラインド制

ピア・レビューは、一般的には投稿論文に該当する専門家による2人体制で行われます。複数の分野の査読者が必要な場合は、3人以上で行われることもあります。また、学会誌の編集委員が追加のレビューを行うことがあります。

ピア・レビューは、バイアスを避けるために匿名制がとられていることが多く、シングル・ブラインド制（著者は査読者が誰かを知らず、査読者は著者が誰かを知っている）と、ダブル・ブラインド制（著者は査読者が誰かを知らず、査読者も著者が誰かを知らない）があります。日本クリティカルケア看護学会誌の査読は、ダブル・ブラインド制で行われています。（文献1-3参考）

## 査読者の倫理的責任

査読者は、研究の質の保証と向上のために投稿論文を評価するという大変重い責任を担っています。査読者の役割と責任を理解することは、査読者にとっては慎重な論文査読の意識を強化することにつながり、論文査読を受ける側にとっては査読者の責任についての認識を高めることとなります。科学分野で出版する編集専門家のための国際会員組織で、800以上の学術誌にサービスを提供している科学編集者評議会（Council of Science Editors）<sup>3)</sup>は、査読者の倫理的責任について、下記の6つを述べています。

守秘義務 <i>Confidentiality</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読対象の論文の内容を査読過程外の者と共有又は議論すべきでない。</li> <li>・ 投稿論文のコピーを保持せず、その内容に関する知識を査読過程とは無関係の目的で使用してはならない。</li> </ul>
建設的批判 <i>Constructive critique</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読対象の論文の優れた点を認め、問題と思われる点を建設的に指摘し、必要な改善点を示すべきである。</li> <li>・ 著者がコメントの根拠を理解できるように、自分の判断を明確に説明し、支持する必要がある。</li> <li>・ 査読者には建設的なコメントを提供する責任がある。</li> </ul>
適格性 <i>Competence</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読対象論文について適切に評価できる専門的能力を有する場合のみ査読を引き受けるべきである。</li> <li>・ 専門分野が違うなど必要な専門的知識を持たない場合は、適切な評価ができない危険性があるため、査読を辞退すべきである。</li> </ul>
公平性・誠実性 <i>Impartiality and Integrity</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読者のコメントと結論は、偏見や先入観を排除して、客観的かつ公平な観点に基づくべきである。また、著者の人種、性別、宗教などに関係なく、科学的意義、新規性、論文構成、学術誌の扱う範囲と使命との関連性のみに基づくべきである。</li> </ul>
利益相反の開示 <i>Disclosure of conflict of interest</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客観的な査読を妨げるような利害関係を有している場合は、査読者の役割を辞退するか、編集委員長に利害関係を開示し、慎重な対応をとる必要がある。</li> </ul>
適時性と応答性 <i>Timeliness and responsiveness</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読依頼に対して迅速に対応し、査読の期限を遵守する責任がある。</li> <li>・ 期限遵守が不可能な場合は、速やかに査読を辞退するか、期限に関して何らかの調整が可能かどうかを問い合わせる必要がある。</li> </ul>

(文献3 Ethical Responsibilities of Reviewers を基に作成)

## おわりに

ピア・レビューは、研究の質を保証し向上させるための重要なプロセスとなります。査読者も論文投稿者もそのことをよく理解しておくことが大切だと思います。さらに、査読者の誠実なピア・レビューは、論文修正に取り組もうとする投稿者のモチベーションを高めることに繋がることでしょう。また、ピア・レビューには、査読者個々の多くの時間とエネルギーが費やされていることも心に留めておきましょう。

## 【文献】

- 1)独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(2015).科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－, pp96-98. <https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>
- 2)水島昇(2021). 科学を育む査読の技法, pp22-29, 東京. 羊土社.
- 3)Council of Science Editors(2020). Reviewer Roles and Responsibilities, Responsibilities Ethical of Reviewers. <https://www.councilscienceeditors.org/2-3-reviewer-roles-and-responsibilities>

(発行日：2023年4月11日)